

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490500089
法人名	社会福祉法人 キングスガーデン宮城
事業所名	グループホーム 階上ブランチ
所在地	宮城県気仙沼市長磯船原66
自己評価作成日	平成25年 9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成25 年10月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○入居者、一人一人のニーズに合わせた工夫、生活歴を大切にし、信頼関係の構築に努めています。
○小規模の空間ではあるが、ホールからの入居者の状況が把握ができます。
○地域がら、福祉、防災に積極的であり、また、小学校行事等で参加もでき、支えて頂いています。
隣接する、デイサービスの方々との交流をおこなえます。
○道路を挟み、向かいにコンビニエンスストアもあり、散歩をし買い物のできる環境です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

キングスガーデンの理念、人生の終焉「夕暮れ時に光あり」を基に、職員は入居者一人ひとりが明るく楽しく、愛にあふれたケアに努めている。法人設立以来18年経過、三日町、星谷の関連施設はすでに地域に根差している。今回の気仙沼最南端の階上グループホームは、昨年開設したばかりで外部評価は初めてである。小学校、中学校の行事を通して地域住民との交流があり、防災意識も強く、自治会主催の防災訓練、事業所の防災訓練とも実施している。ホームの設計も全入居者の生活の様子がうかがえるよう工夫され、また各居室には冷暖房の他、空気清浄機が設置され、快適な空調に配慮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム階上ブランチ)「ユニット名 」

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、運営規定を職員、入居者、また、来客者等にも見える位置に貼り出している。	キリスト教の精神を基に、6項目の法人理念を掲げている。「愛の心を持ち、喜びに充ちあふれ、弱い人の云々…」又「日々真摯に対応し云々…」等の理念を基に実践しているが、ホーム独自の理念にはなっていない。	キングス・ガーデンの共通理念の他に当事業所として独自の介護理念を掲げられないか、その際は管理者、職員で話し合いで作成しケアの振り返りをしながら実践される事を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事に参加や同敷地内のデイサービスの通所者との交流をしている。顔なじみの関係づくりをしている。	開設して一年であるが、町内会、自治会に既に参加し、地域住民の一員として夏祭りや防災訓練等の行事に積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講習を開催し、接し方や理解をしてもらえるようにしているが、実践を通しては不十分である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催は行っているが、評価や向上に生かされていない。今後の課題である。	2ヶ月に1回開催し、地域包括支援、民生委員、自治会長、近隣小学校教諭、消防団員、交番署員等参加している。震災前後の入居者の状況や入居者の離脱に関しての話し合いや協力要請等、活発に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議には参加されているが、その時の入居者の状況や行事等の報告で終わっている。更なる、報告や相談が必要と思われる。	市主催の勉強会、研修会等に声掛け頂き積極的な協力関係を築いている。事例として介護計画の区分変更や認知高齢者についての講話の打合せや相談をしている。今回の外部評価も高齢介護課の同席で実施した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修会の資料などで、拘束の理解を深めているが、より一層のケアの取り組みは大きな課題である。	入居者の無断外出について、自治会長、消防団、支援センター、階上小学校教諭で協議した。周囲の交通量を考え安全対策としてセンサーの設置はどうか、また入居者の顔を覚えてもらう施策が語られた。仔細な会議録を確認した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや研修会の報告、入居者、職員間でのコミュニケーションの中で虐待が起きぬように十分に防止に努めてケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加はできていないが、事業所間でも必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約、重要事項説明書にも記載しており、説明を行っている。不安がないように時間をかけて行っている。改定時は、必ず文章や来所等で前もって説明を行うように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や発言をしやすいように相談や報告を密に行っている。実際はまだ、会を設けたり、反映することはない。	第三者委員を設け、家族の訪問時や電話で意見や要望を聴き、運営に反映している。家族から成年後見制度運用の相談があり、現在準備中である。入居者の健康相談が3件あり、協力医を含め関係者と検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング月1回、意見交換を定期的に行っている。会話をする中で、互いに意見や提案を言いやすいように工夫をしている。	月一回のミーティングで職員の意見や提案を聴いている。代表者も管理者も職員の働く意欲の向上や人材育成に努め、資格取得の支援も充分に行っていることが、職員の聞き取りから確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間での会話をする中で、業務等の改善や意欲の向上が出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入居者一人一人に合ったケアや職員の技術に差が出ないようケアの統一できるように、その都度対応をしている。また研修を受けるような工夫をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内での交流等は行えている。他の事業所間でのネットワーク作りは今後の課題である。(情報はあがるが行えていない。)		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何気ない会話の中からも不安や要望を解消が出来るように対応をしている。「相手を知る」「私たちを知ってもらう」ことで、信頼関係を構築を目指している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活状況や生活歴などを家族から聞き取り、また、入所に対しての不安が解消できるように時間をかけて説明をしていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最低限の、介護保険の情報を提供している。また、ケアマネや市などの情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いに支えあい、協力しあえるよう工夫をしている。また、人生の先輩方とし、様々な教えも頂いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に時間をいただき、生活状況の報告をしている。また、電話でも同様に行い、アドバイスも頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	混乱が最低限になるよう工夫をし、ドライブや買い物をしている。また、昔住んでいた地区の夏祭りに行ったり、馴染みの美容院にも通ったこともある。	以前のショートステイの友人と懐かしい話を静かに見守っている。菓子作りの得意な昔の知人に、当ホームで作ってもらう等、馴染の関係を陰で支援している。夏祭りには懐かしい仲間と会う事が最大の楽しみである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に意識をし、対応をしている。職員が間に入り、係わりを作り、その状況をみて工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、事例はないが、今後、何らかの係わりを持っていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、表情や行動から工夫をし対応に努めている。	個々の生活歴から趣味や習慣を把握し、トイレに行きたいか外出したいか等、表情や行動から察知し対応している。日常の散歩で東方の海岸の見えるところまで行くと、ホッと満足すると云う。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時調査で、生活歴や生活状況を家族、本人より聞き、状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中での見守りや記録で持っている能力を見出し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常からの会話から、思いを汲み取り必要なニーズの把握に努めている。また、ミーティングなどで話された課題や対応をケアプランに反映させている。	3ヶ月毎にケアプランの見直しを行っている。又利用者の個々の変化の都度、必要に応じケアプランの見直しを実施している。解決すべき課題を上げ短期目標、長期目標を設定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、排泄・水分・睡眠等の記入をしている。日々の変化等を見逃さぬよう、情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟なニーズに対応ができるように考え方やその人に合わられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コンビニやスーパーへの買い物、地域への参加できるよう支援している。ボランティアの導入により、「楽しむ工夫」を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医の継続や、本人の負担がないよう、協力医に変更するなど、家族との協議の上決定している。受診は基本家族対応としているが、緊急や都合が取れない等のときは施設の対応としている。	週に1回、法人内の看護師の訪問と月に2回協力医の訪問診療を受けている。かかりつけ医の受診は家族が対応し、緊急時は職員が対応し、診療結果の記録を残している。協力医とかかりつけ医の関係は良い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの訪問により、日々の報告や助言をもらい健康管理の観察に努めている。また、デイサービスの看護師より、随時状況の確認や相談も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の生活状況や身体状況を病院側に情報提供していると共に、退院時は情報の聞き取りを行っている。定期的に訪問をし情報の収集をし、本人が安心して治療が行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に聞き取りを行っている。「まだ、考えられない」「先の事」と思っている方がほとんどであるが、家族間での話をしてもらえるようにお願いしている。また、施設側での「出きる事・出来ない事」の説明をし期間を見て聞き取りを行う方向である。	重度化した場合における対応に関する指針書(看取りを含む)が作成されており、契約時に重要事項説明の中でこれらの意思確認をし同意をもらっている。又、急変時には家族と主治医と協力医との連携を図り受診医療機関を決めるとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間や家族でも話を行っているが、実際に起きた場合、冷静に対応ができるか。時間帯によって不安面の要素が異なるため、今後の想定とした訓練が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所や経路はマニュアルとし、見える場所に貼り出している。 地域住民との訓練をしている。また、施設の近くに住む職員、家族の協力をもらうよう法人間でも話をしている。	住民参加の夜間想定避難訓練を年2回実施している。その他に自治会主催の防災訓練にも参加している。マニュアルに一次避難場所は階上小学校、二次避難場所が中学校で経路を明記した図面を掲示している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや、対応は十分に注意している。	人生の先輩として人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう十分注意してケアしている。呼び名は1名だけ「カッチャン」他は「さん」付けで呼びかけ、失禁や失敗の際は周囲に配慮し静かに対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの工夫や意思表示ができるように、また、自らが決定出来るように工夫に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の状況を見て、柔軟に対応できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日課として、身だしなみを整えられるように声掛けや手伝いをしている。行事や特別な時など、化粧などを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を一緒に行える工夫をしている。食事の工夫も、好みに合わせたり、季節の食材、経歴を生かして魚をおろしてもらったりと、食への楽しみを取り入れている。	食事の準備や片付けを一緒に行い、魚(カツオ)を捌くのが得意な人も居り、季節に合った献立を工夫している。地域がら魚が好んで、刺身、ちらし寿司、外食にかっぱ寿司にも行く。当日は2種類の魚すり身団子が出た。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録をつけ、その時に合った対応をしている。極端に少ない場合でも、少量でも細目に補給を行い、補助食品等の利用もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に、朝、夜と行っており、必要に応じてその都度行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録チェック表を使い状態の把握や情報の共有をしている。サインを見逃さないよう配慮し、出来るだけトイレでの排泄が行えるように支援している。	現在男性一人は普通のトランクス他はリハビリパンツ、尿探りパッドを使用している。日中は排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。夜間は、自立している人も居るが時間をおいてトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす、食事に繊維物や牛乳、ヨーグルトなどを提供するなど努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を行う為の安全性を優先にするために、職員本位になってしまっている。出来るだけ、ゆっくりと、安全に対応を行っている。また、体調や本人の状況で拒否があった場合は、気持ちを優先に対応をしている。	毎日入浴が可能である。本人の希望や体調に合わせ、週2～3回の入浴支援をしている。入浴拒否者は、本人の気持ちを優先し、職員や時間を変えて誘導し、入れば気持ちよく満足している。菖蒲湯や柚子湯が人気である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のリズムで入眠をしている。日昼、傾眠していたり、眠そうにしている時は、休ませるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合、把握が出来るように共有化している。(日誌に記録や貼り出ししている) 状態の変化の観察も行えるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人を理解し、生活の中で、「楽しみ」が見出せるように工夫をして、役割や趣味が持てるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課として散歩を行っている。買い物や行事も定期的に行い、急な外出でも柔軟に対応が出来るようにしている。	毎日の散歩の他、週3～4回の食材の買出しや「モーランド」に弁当持参でドライブしたり、海風浴(大谷海岸)や安波山から港の景色、市民の森の新緑、花見等、法人の9人乗りのハイエースで出掛ける。家族と一緒に懐かしい所にドライブや食事に行く事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員で行っている。1000円程度、自己管理をしている入居者もいる。なるべく支払う際はお金を渡して買ってもらえるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話番号を覚えて、電話をしたい希望があれば支援をしている。が大半は難しい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が分かりやすいように工夫をしている。常に清潔を心がけている。	コスモスの生花、切絵のもみじが壁に貼られていた。小学生の敬老メッセージ、ボランティア行事の写真等が整然と掲示されていた。換気も良く空気のよどみも無く、快適である。居間及び食堂はゆっくりくつろげる雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのほか、ソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのものを、使っているものを持ってきている。	居室には冷暖房機その他空気清浄機が設置されている。ミッキーマウスの縫いぐるみや、孫の写真、フォトフレームが置かれている部屋もあった。踊り仲間や、パーマの先生、デイサービスの友人等が居室に訪れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全が保てるように十分配慮をしている。視野から分かるように表示など工夫をしている。		